

シンポジウム開催に当たって

福島原発事故から7年目を迎える今、避難指定地域の解除、被害者の切り捨てが進められています。自主避難者は住宅支援を打ち切られるだけでなく、行き場を失ったその避難者が自治体から訴えられるという、考えられないような事態となっています。子どもたちの甲状腺がんは「不要な手術だった」などの暴論とともに検査の縮小がとりざたされています。私たちはこうした事故の隠ぺい、被害者切り捨ての一つ一つに対峙してゆくとこが必要と考えます。

そして今、私たちが特に見過ごせないと考えるのは、放射能ごみのバラ撒きという事態です。汚染土の再利用、除染廃棄物の焼却、焼却灰の高温処理などが進められています。放射能に汚染された木材を燃料とすれば木質バイオマス発電もまた同じです。各地で放射能ごみ「リサイクル」=放射能のばら撒きに反対して闘っている人々をお招きして、この問題について私たちがなにをすべきかを考えたいと思います。

講師プロフィール

放射能ごみ焼却を考える福島連絡会

和田央子さん

Wada Nakako



福島県塙町在住。2012年居住地域に環境省の指定廃棄物焼却炉が建設されたことをきっかけに放射能汚染ゴミ問題に取り組む。

福島県塙町で生まれ、東京でプログラマーとして会社勤めをし、2000年に田舎へ戻る。2013年に塙町木質バイオマス発電所建設計画があり反対運動に関わり、以降、近隣の木質バイオマス発電所反対運動等で活動中。



塙町木質バイオマス発電問題連絡会

金澤光倫さん

Kanazawa Mitsunori

みどりの里の環境を守る会

鶴巻俊樹さん

Tsurumaki Toshiki



新潟県三条市在住。高専時代は山岳部に没頭。会社に就職後は組合運動を進める一方、合鴨農法有機米の栽培に取り組む。2009年から農業委員を2期、2010年から三条市議を1期務める。現在、バイオマス発電建設の反対運動に取り組む。

ちくりん舎とは

- ちくりん舎は、NPO 法人市民放射能監視センターの愛称です。
- ちくりん舎は、フランスの放射能分析市民 NGO である ACRO よりゲルマニウム半導体測定器を寄贈されたことをきっかけに、立ち上げられた市民団体です。
- ちくりん舎は行政から独立して放射能汚染を監視・測定、情報発信する、市民団体・個人からなる会員組織です。共同で測定ラボを運営しています。

- ちくりん舎には経験のあるスタッフがいる他、様々な市民団体が会員になり情報交換をしています。

- 詳しくは、HPをご覧ください。

<http://chikurin.org>

〒190-0181

東京都西多摩郡日の出町大久野 7444

Tel/Fax:042-519-9378

e-mail lab.chikurin@gmail.com

